

平成29年度 学校評価結果

高山村立高山小学校

A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	評価(7月用) 自己評価	
I 保護者との連携	1保護者への情報提供	①「学校や子どもの成長の様子がわかる」と答える保護者が80%以上である。	○学校・学年・保健等、各種たよりの発行 ○情報提供の機会設定(授業参観、学級懇談、教育相談等、親子行事等) ○連絡ノートや電話によるきめ細かな家庭連絡	A	
	2連携のための環境づくり	②学校の諸行事に参加している保護者が80%以上である。	○参加しやすい日時の設定 ○懇談会の持ち方の工夫 ○案内の早期通知	A	
	3保護者への対応	③「学校は、連絡や相談がしやすい」と答える保護者が80%以上である。	○共感的姿勢での対応(カウンセリングマインド) ○連絡、相談機会の設定(家庭訪問週間、教育相談週間、随時相談・訪問)	B	
II 確かな学力	4できる・わかる授業	④「授業が分かる」と答える児童が80%以上である。	○指導と評価の一体化を図った指導の充実 ○学び合いの場の設定 ○習得した知識や技能を活用する場面の設定	A	
	5基礎・基本の定着	⑤教科の基礎・基本が確実に身に付いている児童が80%以上である。	○学習規律の定着 ○繰り返しの学習の時間の確保 ○ICTの活用	C	
	6学習習慣	⑥「家庭での学習や読書を毎日する」と答える児童が80%以上である。	○学年の実態に応じた家庭学習課題の設定と家庭学習の指導 ○朝読書と図書館読書の推奨 ○生活ノートの点検と励まし	B	
III 豊かな心	7あいさつ・言葉づかい	⑦進んで挨拶や返事ができる児童が80%以上である。	○登下校時のあいさつ励行 ○始業、終業のあいさつ励行 ○児童会を中心とした働きかけ	C	
		⑧時や場・相手に応じた適切な言葉遣いができる児童が80%以上である。	○TPOに応じた言葉遣いの日常的指導 ○入退室のマナー指導 ○全教育活動を通じての正しい日本語指導	C	
	8いじめのない温かな人間関係	⑨「学校へ来るのが楽しい」と答える児童が80%以上である。	○「心の居場所」のある学校・学年・学級づくりの推進 ○自尊感情や自己有用感の醸成 ○学級会議等による自治的な活動の重視	A	
		⑩いじめの発生予防に努め、いじめの解消率が100%である。	○定期的ないじめ調査の実施 ○いじめの早期発見のための工夫 ○SCと全職員による生徒指導会議の毎月開催	B	
		⑪相手の立場や気持ちを考えた親切な言動がとれる児童が80%以上である。	○特別教科道徳に向けた取組 ○異学年活動(縦割り活動)の実施 ○意見交流のある授業実践	C	
	9学校や家庭のルール	⑫学校のきまりや約束を守って生活している児童が80%以上である。	○たかやま学びと生活の約束の実践 ○高山小よい子の一日の実践	A	
		⑬「家族の一員としての役割をもって生活している」と答える児童が80%以上である。	○家事、手伝いの奨励 ○メディア接触制限の推進 ○家族同時食事の奨励	B	
	IV 健康・体力	10基本的な生活習慣(家庭教育)	⑭「毎日、朝食を食べて登校している」と答える児童が80%以上である。	○早寝早起き朝ご飯の推進 ○児童の朝食摂取実態に応じた保健指導の充実 ○学校だけでなく保健だよりによる朝食と健康についての啓発活動の推進	A
			⑮早寝・早起きをしていると答える児童が80%以上である。	○早寝早起き朝ご飯の推進 ○メディア接触制限の推進 ○生活実態調査の実施と保健指導の充実	A
11体力づくり		⑯「毎日、体を動かして遊んだり、運動したりしている」と答える児童が80%以上である。	○体ほぐし運動、体づくり運動を取り入れた体育授業の実践 ○業間での体力向上の取組の充実 ○放課後の遊びの時間の設定と外遊びの奨励	A	
V 学校安全	12学校の施設設備	⑰「毎月、学校施設の安全点検を行い、課題のある箇所については確認され、適切な処置がなされている」と答える職員が80%以上である。	○日常点検の実施と毎月の安全点検の励行 ○安全点検箇所のローテーション化 ○営繕の迅速化	A	
	13学校の安全対策	⑱「交通安全、防犯、避難、救護などを想定した訓練を学期1回以上実施し、安全(危機)管理マニュアルに沿って指導を徹底している」と答える職員が80%以上である。	○各種避難訓練の実施 ○交通安全教室、救急救命講習会の実施 ○学期はじめの下校指導、通学路点検の実施	B	
	14安全対策の連携	⑲「通学路の危険箇所や『子ども安全協力の家』についてお子さんと話をしている」と答えている保護者が80%以上である。	○交通安全街頭指導の実施 ○安全ボランティアへの協力依頼 ○「子ども安全協力の家」へ協力依頼と家庭への周知	C	
VI 進路・生き方	15夢や希望	⑳「将来の夢や希望がある」と答える児童が80%以上である。	○自己理解を深める授業実践 ○自己の将来を考えさせるための資料提供 ○全教育活動を通してのキャリア教育の推進	A	
		㉑「親子で将来の夢や希望について話し合うことがある」と答える保護者が80%以上である。	○啓発活動(キャリア教育関連資料の提供) ○親子体験活動の推進(親子行事、PTA美化活動)	B	